

# 社会科学研究委員会

- 1 研究テーマ 「社会的な見方・考え方を深める社会科授業の創造  
～ 直面した問題を解決していく力を高める支援のあり方～ 」
  
- 2 研究課題
  - (1) 社会科における「確かな力」と考える『見方・考え方を深めていく』姿を、子どもの姿を通してとらえ直していく。
    - ・豊洲小の子ども姿から、「見方・考え方を深めていく」姿を具体的に明確にしていく。
  
  - (2) 問題解決学習を基本とした単元構想とその支援のあり方を探る。
    - ・子どもが自ら動き出し切実な学習問題となる、事象との直面の工夫を図る。
    - ・確かな事実や明確な根拠をもつための、調査・聞き取り等の支援を工夫する。
    - ・根拠をもとに、友や資料(事実)と対話しながら追究を深める話し合い等の活動での支援の工夫を図る。 ...等
  
  - (3) つける力を明確にした、地域素材の教材化を図っていく。
    - ・地域素材の発掘と、単元でのつける力とのつながりを明確にする。
    - ・子どもにとって、より身近で切実感をもって追究していける教材化の工夫
  
  - (4) 授業・単元の評価の工夫と、その評価を通してのカリキュラムの見直しと他学年や中学校との関連・つながりを図る。
  
- 3 指導の実際
  - (1) 予想の十分な練り上げを位置づける。
    - ・「長篠の戦いでなぜ信長は武田軍に勝てたのか」(7月)の追究において、既習の学習や知識をもとに予想を練り上げた上で調査・情報収集をすることにより、本時の問題が絞られ追究が深まったのではないか。
    - ・「配給制になって国民の生活は良くなったか」(11月)の予想を出し合うことから、「配給制の必要性」を理解し実際の生活はどうだったのかの追究へ向かっていった。
  
  - (2) 共同追究での支援の工夫を図る。
    - ・「信長の勝因」について様々な考えを出し合う子どもたちに多くの資料が出されたが、焦点化する教師の出によって「信長の先見性」に迫る深まりへとつながったのではな

いか。

- ・「配給制の必要性」から実際の生活はどうなったのかを追究していく中、実際に経験したお年寄りの話を聞いて考えたことを出し合うことで、友との対話が深まったと思われる。

また、食料の配給について考えていた子どもたちにとって、衣料切符の体験は子どもの意識とのずれがあり、本時のねらいに迫る子どもの姿のイメージを明確にしておきたい。

#### 4 事例から明らかになったこと

問題解決力を高める支援を通して、「見方・考え方を深めていく」具体の姿をとらえることができたか

- (1) 学習問題に対する予想を、既習の学習や知識をもとに十分に練り上げていくことで、ねらいに迫る共通の理解を得たり、個々の追究意欲が高まったりする。
- (2) 個の追究から話し合いの共同追究で、ねらいに迫る焦点化された教師の出や資料の提示、体験的な活動等の支援により、個々の見方・考え方の深まりがみられる。

#### 5 来年度への課題

- (1) 問題解決学習の中での、児童・生徒の見方・考え方の深まりを、単元展開や支援の工夫とのかかわりでとらえていく。
- (2) 子どもの意識のつながりを大切にした、地域素材を生かしたカリキュラムを再構成していく。また、単元・授業の評価から学年ごとの、また小中の関連やつながりを図る。
- (3) 一時間の授業や単元の終わりでの、ねらう姿のイメージを明確にして、単元構想・授業展開を考え吟味する。

#### 6 その他

授業者が一番学べる研究のあり方を探るとともに、参会者が実践に生かせる研修（指導者を置かない授業研究、演習や巡検等の工夫）を考えたい。